



【読書】キャラクター「おっほん」

札幌市立旭小学校

読書活動の取組

読書センターとしての機能

読み聞かせイベント

①朝読書の時間の先生による読み聞かせ

読書ウィークの期間、図書館の中から本を選び、先生の入る学級をランダムに入れ替えて、各クラスで読み聞かせを行いました。読み聞かせ終了後、子どもは図書館で関連のある本を探すなど、読書の幅が広がる機会となりました。また普段あまり関わることのない先生が読み聞かせをすることで、会話がうまれるきっかけとなりました。

②図書委員会&ぶっくんクラブによる読み聞かせ

読み聞かせイベントに参加した子どもへのプレゼント作りから、図書委員会とPTAのぶっくんクラブが協力して行いました。イベントでは、本の読み聞かせと紙芝居の読み聞かせを行いました。多くの子どもが参加し、友達と驚きや笑いを共有できました。

放課後図書館開放 「ぶっくんくらぶ」の取組の一つとして放課後に1時間

程度、図書館を開放する日を設けています。子どもは友達とゆっくり本を読んだり、借りたりすることができます。その間、ボランティアで保護者の方が本を修理してくださっています。

ぶっくんタイムの設定 週に一度、教室ではなく図書館に行って本を読む時間を設けました。本を貸したり返したりする時間にもなり読書習慣を身に付けるきっかけとなりました。



学習センターとしての機能

3年生 「おすすめの一さつを決めよう」

1年生に紹介するおすすめの本を話し合いで決めに読み聞かせをしました。活動を通して、異学年交流の活性化そして、読書への興味関心が高まる機会となりました。

4年生「伝統工芸のよさを伝えよう」

自分でテーマを考え、伝統工芸品について本で調べました。本で調べることの良さを実感しながら、正確な情報を得ることができました。さらに、他の伝統工芸品についても目を通すことで、周辺知識を身に付けながら、学習をすることができました。



情報センターとしての機能

新聞から情報を得ることの良さを知ってもらうために

図書館の机と机の間に、子ども新聞を読める棚を設置しています。子どもが本を読む際に手に取りやすいように、開く面を変えるなど工夫をしています。また、ぶっくんタイムでも新聞を手にとっている子どもも増えてきました。また、棚に過去の新聞も読めるように保管しておくことで、連載されている記事を振り返って読めるようにしています。自分の興味がある写真を見つける、記事を読むなどそれぞれの楽しみ方で新聞を読んでいます。